

之及于狹々浪栗林而多斬於是血流溢栗林故惡是事至于今其栗林之菓不進御所也

〔日本書紀天武二十八〕元年七月癸丑諸將軍等悉會於筱此云浪而探捕左右大臣及諸罪人等

〔日本書紀通證天武三十三〕筱浪神功紀作狹々浪指滋賀郡而言筱國史作筱字彙篠篆文作筱又云筱字別作篠非

〔延喜式四十一〕凡運水馱者以篠丁充之中略近江國志賀郡部花一所三丁輸一馱

〔續日本紀元正七〕養老元年九月癸亥還至近江國賜從駕五位已上及近江國司等物各有差郡領已下

雜色四十餘人進位一階又免志我依智二郡今年田租及供行宮百姓之租

〔今昔物語十七〕依地藏菩薩教始播磨國清水寺語第七

今昔近江ノ國志賀ノ郡ニ崇福寺ト云フ寺有リ其ノ寺ニ一人ノ僧住ス名ヲバ藏明ト云フ此ノ

僧慈悲忍辱ニシテ施ノ心廣カリケリ

〔伊呂波字類抄國郡〕近江國中栗本府

〔郡名考〕近江國 栗太クワルモト 栗本栗本

〔近江國輿地志略栗太郡二十九〕夫以栗太郡は日本紀續日本紀及延喜式俱に栗太に作り俗に或は云栗

本の字なれども古より本の字の「」を誤來て太の字になすといへり然れども此言は不稽なり

正史實錄悉誤とすべけんや栗本の文字チをもちふべし三國傳記に曰近江の栗の樹は天竺栴檀

の種なり故に栗の文字西と木と合す栗の樹枝葉天を覆農民これを呼て魔木といふ斧斤截

れどもきれず一夜杳人靈夢をこふむり木を截やくこと數日終倒つくるにいたるその灰を塚

につく今の栗本の灰塚是なり栗の樹の枝湖邊に流とまるところ今の木濱なりその郡をも

つて栗本と名づくといへり世俗のつたふる處も又此のごとく中たごのいにしへ栗の樹

のおほくありしゆへ郡に名づくなるべし日本紀に近江國栗田郡としるせるところありもと

より栗田郡といふ郡なしおもふに上古は栗田となへしにや栗は栗の字の轉寫の誤なるべ

栗太郡